

動く広告塔 朝来市宣伝バス登場

竹田城跡と生野銀山の写真を車体に飾った特急バスの運行が始まりました。

これは市の知名度アップや観光客の誘致を目的に実施するもので、但馬と大阪方面を毎日1往復する特急バス(全但バス)が市の観光名所を宣伝しながら走ります。

車体左側に雲海の竹田城跡、右側に生野銀山坑道内と入り口後面に竹田城跡の石垣がラッピングされ、平成27年6月までの5年間運行します。



市の観光名所を飾った高速バス

障害福祉向上のため養父市と連携

6月24日、朝来市と養父市が共同で、第1回南但馬自立支援協議会(障害者自立支援協議会)を設置しました。他市との共同設置は兵庫県内では初めて。

障害者自立支援協議会とは、障害者の地域生活を支援するために、本人・家族のニーズに応じたサービスの調整や社会資源の改善や開発、関係機関の連携強化、相談支援事業の充実を図るために設置するものです。

会議では、美作大学の石飛准教授による講義の後、相談支援担当が南但馬の現状を説明。今後、定期的に会議を開催し議論



第1回南但馬自立支援協議会の様子

を重ね、朝来市と養父市の障害福祉向上が図られます。

辺の「マツリ」です。このような行為によって人の「ケガレ」は回復し、日常に戻ると信じられているのです。今回紹介しているこの人形はまさにそういった行為に使用されたものと考えられています。

このような水辺のマツリは、当時の国や地方の行政機関の周辺で行われていたことがわかっていきます。但馬では豊岡市日高町の但馬国府跡周辺で確認されていますし、朝来市では立脇区の釣坂遺跡や山東町柴遺跡などでこのようなマツリが行われていたことを裏付ける木製祭祀具が出土しています【写真②】。釣坂遺跡からはこの人形とともに「郷長」と墨書きした土器が出土していることから奈良時代に設定された最も小さな行政単位で



【写真②】釣坂遺跡の木製祭祀具(左:馬形、中:斎串、右:人形)



【写真③】「郷長」と墨書きした土器(付近に郷の役所があったことが想像できます)

ある「郷」の役所周辺において行われていたことが推定されます【写真③】。釣坂遺跡は当時、「桑市郷」と呼ばれた行政単位の中に取り込まれました。また柴遺跡では同時に出土した木簡から粟鹿の駅家(うまや)と推定される遺跡です。要するにこのような水辺のマツリは国を中心とした行政機関の事業のひとつとしてとり行われていたのです。

マツリはまつりごと(政治)と密接に関わって存在していました。国をあげてこのようなマツリをとり行うことにより、民衆の平安を祈ったのでしよう。このようなマツリは、現在でも禊・祓(はら)いや流し難など、形を変えながら民衆信仰や年中行事の中にも引き継がれているのです。

(市教育委員会社会教育課)